

小規模多機能型居宅介護 サービス評価
(地域密着型サービスセンター桂坂)

【公表】

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW, 岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	2	5	2		9
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	6	1		9
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	5	3	1		9
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	3	3	2	1	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 利用開始前に CM、CW でニーズや基本情報、ニーズを知りライフサポートプラン基にご利用者の立になってサービスを考え提供している。また、施設を利用するにあたってはご利用者に理解して頂けている。
--------	---

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 急なサービス利用があった場合ご家族や介護者の思いやご利用者の情報、ニーズを全員で共有できないままサービス開始となる場合もあった。その為、ニーズの理解不足や必要とされる支援が十分に提供できない場合があった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) 定期的にカンファレンスを行いご利用者の情報やニーズ、ライフサポートプランについて CM を含めて話し合い必要とされている支援について理解し共有する。カンファレンスに参加できなかった職員にはカンファレンス記録を閲覧し全員での情報共有をおこなう。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	2	7			9
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	5	3	1		9
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	3	4	2		9
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2	5	1	1	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 居宅サービス計画書、ライフサポートプランでご本人の当面のニーズを把握しサービスを提供している。また、日々のかかわりの中で得たニーズや情報はこだわりシートに記入しご本人のしたいと思っておられる事を理解しようと努めている。
--------	--

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 開所後まもなくで職員が慣れておらず、日々の業務に追われ情報発信が出来ていない時がある。またカンファレンスは出来ているがご本人の目標 (ゴール) についてのニーズの発掘が出来ず実践に結び付けて支援が出来ていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) ご利用者ごとに担当の職員を決め、その職員が中心となりライフサポートプランを把握しどのような支援が必要かを他職員に発信し共有していく。また、こだわりシートは担当職員を中心に記入しご利用者の目標を理解していく。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

3. 日常生活の支援

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし」が10個以上把握できていますか?		4	4	1	9
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	4	4		1	9
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	2	4	2	1	9
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	4	4		1	9
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	5	1	1	9

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 認知症の症状や本人の性格から読み取れるもの、体調等からの情報などがあれば共有し、具体的なかわり方を意見できている。 ご本人様のその日の体調や状況に合わせ情報を伝達、共有し細かくケアを行い基本的な介護を提供出来ている。また、体調や気持ちの変化に合わせて利用の仕方を工夫している。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 同性介助の必要から、直接支援できていない利用者がある。 利用開始から間がなく、聞き取りが浅い利用者がおられ生活環境を理解する為の情報が少なく、10個以上は把握出来ていない。 ご利用者の真の思いや気持ちの変化は感覚的な所がありチームとして共通認識が困難な事がある。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 「以前の暮らし」についてはセンター方式シート(情報収集シート)を活用し整理を進め10個以上把握する。 利用開始前に基本情報の共有のみでなくご利用者の思いや「以前の暮らし」についてカンファレスでチームを行い記録に残し共有する事で把握していく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	8			9
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	6	1	1	9
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		6	2	1	9
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		2	5	2	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
フェイスシートを読みご利用者のこれまでの生活スタイル、人間関係を理解し今までの暮らしを継続できるようにライフサポートプランを基にサービスを提供出来ている。また、我々だけの支援だけではご本人様の生活は成り立たずご家族の協力があつてこそである事を利用前にご説明しご理解を頂けている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
民生委員や自治会等との関係性が稀薄で職員全員が把握できていない。 ご利用者と地域との関わりが把握できておらずご利用者にとって必要な社会資源が何なのか理解が出来ていない。 フェイスシートに記載されている情報のみでその方の過去の情報や人間関係の関係性が理解できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
センター方式シートを活用しご利用者とご家族を含む人間関係、地域との関係を整理し把握する。それによってその方に必要は社会資源が何かを理解していく。 自治会や地域包括支援センターへ積極的に出向き関係性を構築していく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	5	2	1	9
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	6	3			9
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	3	5	1		9
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	6	1	2		9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること ご本人のご希望や体調の変化、ご家族のニーズに合わせて「通い」の時間を延長したり「通い」を「訪問」に切り替えたり、その逆も随時行えている。支援前に記録を読みご本人の「変化」をしり、ミーティングでは本人に状態や「変化」を共有している。
--------	--

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 開所間もないため、地域資源の把握、協力といったところできていない。特に団地の利用者については、その団地内での自治組織との関わりはまだ浅い。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) 各学区の社会福祉協議会、民生委員や自治連合会等と関係が構築できるように、継続的に地域ケア会議に参加する。 地域包括支援センターとの情報共有を図り、利用者の状況に応じて地域で支える方法を検討する。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

6. 連携・協働

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	2	1	1	5	9
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	3			6	9
③	地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?	2	1	2	4	9
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	5	3		1	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
地域包括支援センターとのかかわりは積極的にとっており、認知症サポーター養成講座、地域ケア会議へは積極的に参加している。また、地域交流スペースを開放しているため地域住民の方が事業所を訪れている。また、総合支援学校の生徒も事業所に訪れている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
業務上、代表者が会議や地域のイベントに出る事が多くケアワーカーが参加する機会が無い。また、地域交流スペースを活用し地域住民が事業所に訪れているが、それ以上の関わりに未だ繋がっていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
盆踊りや秋祭り等の地域のイベント情報を把握しご利用者と一緒に参加を図る。 地域交流スペースを活用されている各種団体に声をかけボランティアとして施設のイベントにも参加していただく。 児童館や保育園、小学校等との関係を構築し、どのような関わりができるか検討する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

7. 運営

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	4	4		1	9
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	4		1	9
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	5	1	1	9
④	地域に必要なとされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	1	4	2	2	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>1 階の地域交流スペースの無料利用により、地域の方の会議スペースや活動スペースとして活用されている。</p> <p>理念の共有、運営方針等の共有はできている。また、小規模の施設とはどういう所かを見学に来られた方や地域の方に説明はできている。</p> <p>ケアマネが丁寧にご家族の話を聞きに訪問にお伺いしたり、送迎、訪問で職員が直接ご利用者、家族からの意見をお聞きし他の職員と話し合い改善出来ている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>地域とのかかわりについては日が浅いこともあり、まだ具体的な協働の取組みが少なく行えていない。意見や苦情を報告する事は出来ているがそこから運営に反映する事が出来ていない。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>地域ケア会議等を活用し、地域の要望やご意見をいただく機会とする。</p> <p>いただいたご意見は、小規模会議で周知し、改善策を検討したうえで実践し、地域ケア会議等を通じて回答する。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	5	4			9
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	4	3		2	9
③	地域連絡会に参加していますか	2			7	9
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	5	1	1	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>事業所内研修を毎月行っている。また、法人小規模部会、地域密着協の小規模部会等への参加、研修には各職員が参加するように促している。</p> <p>施設を代表して地域会議に参加。</p> <p>事故の起きる要因を抑え、事故を未然に防げている。またヒヤリハット事例は他の施設での事例についても参照している。</p> <p>介護福祉士の資格を取得した。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>リスクマネジメントは行ってはいるもののご利用者が少なく取組みが少ない。また、リスクマネジメントも内容は理解しているが職員によっては理解度がバラバラであった。</p> <p>地域連絡会には代表者が参加しケアワーカーは参加する機会が無かった。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>事故の定義等、マニュアルの理解も含めたリスクマネジメントの施設内、部署内での研修を行い、ヒヤリハットの理解度を一定にする。</p> <p>法人内の事業運営会議で各施設の事故報告に対する法人弁護士のコメントがあり、今までも閲覧をしていたが、再度その存在を明確にし、毎月 1 回、各職員が必ず目を通すようにする。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 4 日 (16 : 00 ~ 17 : 00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 浦川管理者, 白木副主任, 森本CW, 中村CW, 福田CW, 越川CW, 多賀野CW岩井CW, 井上NS

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	8		1		9
②	虐待は行われていない	8	1			9
③	プライバシーが守られている	4	4	1		9
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	3		5	9
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	3	2	1	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 事前研修も行い身体拘束、高齢者虐待を行わない事を事前に研修を行い職員全員が理解しており、身体拘束、虐待は行っていない。
--------	--

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 成年後見制度を必要とする方がおられず活用はしていない。 見守りの為とはいえお部屋のドアが開けっ放しであったり、他のご利用者にも聞こえる声で排泄状況の話をされプライバシーに配慮されていない事があった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
施設内、部署内で改めて身体拘束、虐待、プライバシーについて研修を行い学習し職員の意識を統一する。 成年後見人制度についても施設内で研修を行いどのような方が対象となるのか学習する。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 京都福祉サービス協会	代表者	理事長 田邊眞人	法人・ 事業所 の特徴	「くらしに笑顔と安心を」の理念のもとに、京都市に多種多様な介護事業所を持つ法人である。 事業所は桂坂学区の福祉ゾーンに位置し、洛西ふれあいの里保養研修センターが担ってきた地域コミュニティの拠点としての役割を踏まえ、高齢者の居場所づくりの推進や、地域住民同士の交流の場の提供など、地域で高齢者を支えるネットワークの構築を進めていく。また、地域との関係性を大切にしながら、利用される方がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援している。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所桂坂	管理者	浦川良太郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	1人	2人	1人	1人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> 記録から、全員が取り組んだという事はわかる。 まだ開設間もないので、急いであれもこれもとしなくても良いかと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 9つの自己評価結果から出た改善計画に基づき、ご利用者一人ひとりの生活歴や地域との関係性などを情報収集し、暮らしのありように基づいたサービスが提供できるように、職員が情報収集シートを用いてカンファレンスを行い、チームで同じ方向に向かって支援できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> 交流スペースの利用頻度がどの程度あるのか？ (事業所を知ってもらうためにも) どんどん交流をした方が良い。 山の手倶楽部は元気な方がほとんどなので、様々な交流を持つことが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流スペースの貸し出しにより、地域の方に施設を理解していただく機会となっている。引き続き多くの方に使っていただく。 誰にとっても居心地がよい空間となるように、清掃の役割を明確にして実施する。
C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> 地域は何ができるかを知ること大切だが、事業所は何ができるかを示していくことも大切だと思う。例えば、他の事業所はどうしているのかなどは、法人内外の会合等で確認されてはどうか。また、「桂坂だより」の紙面を活用して、認知度を高めるPRをされてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事（秋祭りや盆踊りなど）へは利用者と共に事業所全体で参加し、地域住民に積極的に挨拶をすることで、声をかけやすい意識を持ってもらう。職員全員が事業所について質問された時には答えられるようになる。 地域広報誌「桂坂」に、事業所の活動について知ってもらえるように記事を作成する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> 地域の方で介護にお悩みの方からの相談は数件ありました。それに対し、事業所にできることを示したり、地域包括支援センターを紹介したりの対応をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議への出席のほか、個別の事例に応じた個別地域ケア会議を行い、地域全体で利用者を支える仕組みの構築を図っていく。 利用者宅への訪問時には、同じ団地や自宅周辺に対しても意識を向け、気になることがあった時には、事業所内で共有する。
E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> サ高住や老健など、専門用語はわかりにくいので使わないでほしいです。 運営推進会議でどこまで地域のことを話するのがまだ見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議では、事業所の取り組みを説明するだけではなく、参加者からの事例等も検討する場とし、事業所ができる地域へのアプローチを検討する。また、地域包括支援センターとともに連携し、地域の高齢者を見守っていく目という役割を部署会議で職員に対して周知し、地域で済んでおられる高齢者を見守る共同体制を構築していく。
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> 防災・災害対策に関しては、洛西ふれあいの里などとの互助組織があって、火災があった際に協力しあう仕組みとなっている。福祉ゾーンの一員として、加わることをお勧めします。 そもそも消防計画を見たことがないので、判断のしようがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の防災計画を運営推進会議で共有する。 福祉ゾーンの互助組織に参加し、災害発生時の対応などを事業所職員に周知するとともに、災害発生時の施設の役割を関係各所に周知する。 通常の年2回の消防避難訓練に、土砂災害等の自然災害を踏まえたマニュアルに基づいた動きができるかの点検もかねて行う。

